



No. '25-3

(No.122)

July. 2025

# ISGG NEWSLETTER

## 伊東市善意通訳の会

### CONTENTS

|                             |            |    |
|-----------------------------|------------|----|
| 1. モカコーヒーで至福のひと時            | 菊池 善次郎     | 2  |
| 2. 下田黒船祭・稲梓小での「日米交流会」に参加して  | 加藤 守 康     | 5  |
| 3. 第 5 回英語講演会               |            |    |
| 〈限界を超えて アウトドア教育と私の人生〉       | 中原 雅 哉     | 7  |
| 4. 私の Outdoor Education の失敗 | 相良 恭 子     | 9  |
| 5. マリリンモンロー映画試写会の報告         | 小松 透       | 11 |
| 【K's サロン報告】                 | 小松 透       | 14 |
| 【英語サロン報告】                   | 加茂野まり子 編集部 | 17 |
| 【事務局だより】                    |            | 18 |
| 【編集後記】                      |            | 18 |





## モカコーヒーで至福のひと時

菊池善次郎

今月初め私たちの住む伊東は市政に関することで全国的に有名になってしまいました。新聞、テレビは勿論のことインターネット/SNS 上では毎日の様に話題が全国的に拡散していきました。いい話題で有名になるのなら有難いことですが、ネガティブな件はよろしくありません。

そんな中、関西や関東その他の地の善意通訳の会の皆さんにも読者がおられる当ニュースレターにノ一天気と思われる様な記事を寄稿するのは伊東市民としていささか躊躇<sup>ちゅうちょ</sup>するところです。然しながら、私たちには全く関係ない事件なのです。そう考えいつも通り寄稿することにしました。

さて、タイトルに戻ります。我が家のティータイムは毎日午前 10 時です。私がコーヒーを沸かし、2 階南側の庭に面したリビングルームで妻と二人でコーヒーを飲みます。コーヒーを沸かすと云ってもドリップ式コーヒーメーカーで沸かすだけなので簡単です。コーヒーは Coop で購入する中挽きモカコーヒーと決まっています。



時々、妻の買ってきたチーズケーキやビスケットが加えられます。特にこれと云った話題を妻と会話する訳でもなく、静かに時が流れます。今は息子たち 3 人全員巣立って独立して生活しており、夫婦二人きりの日常です。勿論、退職後の今は会社の仕事のことを全く考える必要もありません。夜中に会社の船の事故発生で起こされることもありません。夫婦共心配する病気もなく、とりあえず今は元気な毎日です。先日、政府備蓄米も買って来ました。今のところ家に米もあります。

ここはパレスチナのガザ地区でもなく、ウクライナのキーウでもありません。今尚続く紅海のフーシの攻撃を心配しなければならない船の上でもありません。強風と怒涛逆巻く冬の北大西洋を航海しているわけでもありません。とりあえず心配事はありません。窓際にはヤマガラ、シジュウガラ、メジロ(冬)

が餌をねだってやってきます。庭の向うの森ではウグイスがいい声で鳴いてます。最近江戸屋猫八さんに負けないで『♪ホー ホケキョッ』とはっきりした鳴き方です。心穏やかなムードです。

世界も日本も世の中いろいろあって、何も起こらない、静かで、平凡な日常が如何に有難いものかとみんな思っている時代です。我が家のティータイムは特に私が感じる至福のひと時です。毎日の無事に感謝。

### ● モカコーヒーのウンチク

ものの本によりますとモカコーヒーについてこんな説明がありました。

『モカコーヒーはコーヒーの中で最も古い、世界の有名銘柄の一つです。

モカと云う名前はアラビア半島の南西部にあるイエメン（フーシの本拠地）のモカ港の名前が由来となっている。



モカ港は 1400 年代～1700 年代初め、コーヒーの輸出港として栄えた。現在は大型船は寄港できない小さな漁港。近くにホデイダ港と云うイエメンで二番目に大きな港がある（一番はアデン港）。当時モカ港ではイエメン産のコーヒーだけでなく、対岸のエチオピア産のコーヒーも輸出されていた。イエメン産とエチオピア産のコーヒーを称してモカコーヒーと云う』

ブラジルコーヒー、キリマンジャロ（タンザニア）コーヒー、ブルーマウンテン（ジャマイカ）コーヒー、コロンビアコーヒー、などなど産地の名前から名づけたコーヒーが多い中、モカコーヒーは輸出する港の名前から名づけられたコーヒーだということです。

### ● 何故、我が家はモカコーヒーか？

別にコーヒー通ではありませんのでいろいろなコーヒーの味の違いがズバリ分かるわけではありませんが、モカコーヒーを初めて飲んだ時、「まろやかで、癖が無く、苦みがなく、ソフトな味、そしてフルーティーな味」のコーヒーだと思いました。最後の「フルーティーな味」は云われてみればそうかな？と感じただけですが。それ以来我が家はモカコーヒー党となりました。

それともう一つ理由があります。それは現役中の 40 年近く前、“若菊丸”（挿絵）という貨物船に乗船、モカコーヒー（豆）を輸送していたことがあり、モカと聞くと何か親しみをを感じるからです。

● 貨物船“若菊丸”でモカコーヒー（豆）を運ぶ：

1986 年、若菊丸は日本/紅海諸港の定期航路に就航していました。日本から建設機械、重量物、家電製品、農業機械などを運び、帰りは紅海のアカバ港（ヨルダン）、ポートスーダン（スーダン）、アッサブ港/マッサワ港（当時はエチオピア。現在はエリトリア）、ホデイダ港（イエメン）、ジブチ港（ジブチ）などから農産物、肥料、綿花、そしてモカ



エチオピア（当時）で モカコーヒー豆を積み日本へ  
向かう若菊丸 15,492 トン 絵：筆者

コーヒーの豆などを日本に運びました。モカコーヒーはアッサブ港で積みました。モカコーヒーの豆はドンゴロス（麻袋）に入っており 1 袋 20～30 キロの重さだったと記憶してます。集荷倉庫から港の岸壁までカバーのない旧式なトラックで運ばれてきては船の中に積み込まれました。ホールド（下段船倉）には綿花や肥料を積み、大事なコーヒー豆はツインデッキ（中甲板/中段デッキ）に積み込みました。

話は横に逸れますが、アッサブ港は 1 万トンクラスの貨物船が 6～7 隻ぐらいしか着岸できない小さな港です。岸壁のある区域からゲートを出て 4～500m 行ったところに小さな町があります。新鮮な野菜でも買って来ようかと船内食料の責任者を連れて出かけました。

露天市の屋台でトマト、ジャガイモ、それに果物を少々買いました。船に戻る途中に小さなお土産屋があり、覗いて見るとエチオピア製の木製ボウル（縁の高いお盆みたいな入れ物）を売っていたので買うことにしました。お店の持ち主でしょうか中年の女性が愛想よく対応してくれました。コーヒー色のつやつやした顔は間違いなくエチオピア人です。

ニコニコ愛想よくしてくれたので大小 3 個もボウルを買いました。今でも家の食卓でオレンジなどをに入れて役立っています。

1998 年、エチオピア/エリトリア紛争勃発。エチオピアは海岸線を全て失いました。港

のない国になりました。今では、コーヒーは隣国のジブチ港（日本の自衛隊の拠点がある港）から船積みされているとのことです。

紛争は2年余り続きました。アッサブ港のあのお土産屋はどうなっただろう？ コーヒー色のエチオピアのおばさんはどうしただろう？ 今は知る由もなし。

## 下田黒船祭・稲梓小での 「日米交流会」に参加して



加藤 守康

2025年5月16日（金）～5月18日（日）の3日間、下田黒船祭は下田市最大の行事として国際色豊かに開催された。そして今年もまた下田市観光交流課の竹本さんより、稲梓小学校の「日米交流会」での通訳としての依頼を受け、伊東S G Gから主原一雄会長と加藤守康の2名が参加することになった。

5月16日（金）、雲間から薄日がもれ、新緑の風薫る祭り日和の朝、例年と同様に伊東駅で「伊豆満喫フリーきっぷ」を購入し、9時26分発の伊豆急下田行に乗車した。伊豆高原駅から乗車した主原さんと2号車で合流すると、1年ぶりとなる車窓からの眺めを楽しみながら、打ち合わせ通り蓮台寺駅で下車。迎いのバスを待っている待合室では、御殿場市から稲梓小に向かう浅沼優幾さん（同じく今回通訳を担当する女性）にちょうどお会いする。3人でしばらく雑談していると、バスが10時50分頃到着し、白い制服（セーラー服）を着ている米国海兵隊員（水兵さん）が10人乗っていた（そのうち今回女性は1人）。普段は横須賀港に駐留している艦船に勤務しているとのこと。蓮台寺駅で我々が乗ると、バスは稲梓小学校へ。

11時頃、これまで何度か訪問して見慣れた稲梓小学校に着くと、玄関では土屋美華校長をはじめ、数名の教職員が出迎えてくれた。我々通訳担当の3人は、すぐに校長室で土屋校長からその後の予定を説明してもらう。そして控室となった図書室で、ALTの飯田朋子先生から説明を受けていた水兵さんと合流し、交流会場の体育館へ向かった。

会場では42人の全校生徒と教職員が待っていて、生徒による歓迎のことば、水兵さんの自己紹介のあと、全校ゲーム①じゃんけん列車（全員参加）、②赤組・白組の玉入れ（縦割り対抗）が行われた。我々は水兵さんと生徒たちの会話を通訳したり、ゲームに参加したりして過ごす。最後に水兵さんの代表から挨拶があり、集合写真を撮った。

その後、給食のために各教室へ移動し、主原さんは2年生、私は3年生のクラスへ。水兵さんたちも各学年のクラスに2人ずつ（3年生のクラスは Kevin と Chris）が招待される。生徒たちは白い帽子と白衣を着て、手際よく給食の準備を進めており、一緒に美味しくカレーライスをいただいた。食後は自由交流の時間で、Kevin と Chris は生徒の質問に親切に回答していく。3年生は担任が粕谷香野先生で、11人の生徒がいたが、とても活発なクラスで会話が弾み、生徒たちも喜びの表情で、私も通訳していて大変嬉しく感じた。それから皆でフルーツバスケットのゲームを楽しむ。

13時頃教室を後にし、戻った控室で寛いでいると、生徒が訪れて来て水兵さんに“Nice to meet you.”と話しかけ会話が始まったり、“See you.”と別れの挨拶が交わされたり、自分が折り紙で作った鶴や描いた絵をプレゼントしに來たりと、和やかで微笑ましい光景が見られた。

13時10分頃到着したバスに水兵さん10名と我々が乗り、大勢の生徒と教職員の見送りを受けながら稲梓小学校を後に下田駅へ。後日、稲梓小学校から生徒の感想文と記念写真をまとめた冊子が届いた。

下田市ではすべての小・中学校で多くの水兵さんを招き、黒船祭の日米交流会が開催されていると聞いており、とても素晴らしい国際親善教育・異文化コミュニケーションの実践の場であると改めて実感している。これからも依頼があれば、下田市黒船祭の事業に協力していきたい。



## 第5回英語講演会

### ＜限界を超えて アウトドア教育と私の人生＞ を終えて



中原雅哉

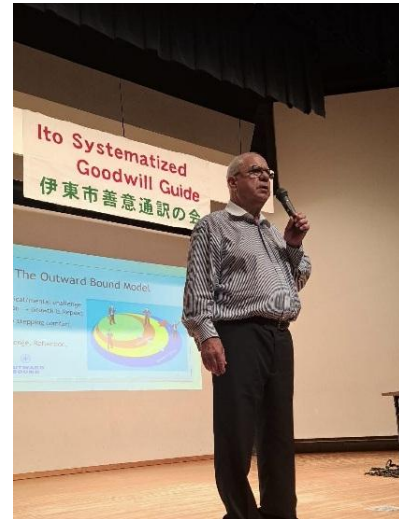
「少し怖いと感じるかもしれないけど、日常の環境から一歩踏み出して自然の中を冒険してみませんか。その先ではきっと、心身とも成長した自分を感じることができます。」これが、今回の英語講演会の主題です。Outward Bound という世界的なアウトドア教育活動があり、そこでは Comfort→Fear→Learning→Growth という道筋が説明されています。

「限界を超えて」というタイトルの背景が想像できなくて、どのようなプレゼンなのかと楽しみにしていました。なるほど、人にはそれぞれの慣れ親しんだ生活環境 (Comfort zone) があり、多少の不満やストレスがあったとしても、多くの人はそこから抜け出そうとは思いません。そこに人それぞれの限界があります。その限界の向こう側は見知らぬ世界であり、今よりはるかに厳しい環境が想像され、一種の恐怖感 (Fear) のようなものを覚えてしまいます。Ted Jones (以降 Ted さん) は、自然への冒険を通してその恐怖感を克服 (Learning) し、自らの限界を超える (Growth) ためのアウトドア教育を今回の講演で紹介しています。

Ted さんは、米国 Virginia 州の Halifax という田舎町で生まれ、幼少の頃から Boy Scout 等の活動を通じて自然に親しんでいました。大学は North Carolina の Appalachian State University (ASU) に入り、アウトドア教育を履修しました。ASU では、アパラチア山脈の大自然を活用した、Camp Broadstone という 10～15 歳の子供を対象にしたアウトドア教育のプログラムを主催していました。Ted さんはここにワークスタディ (work-study) として参加しました。この経験から専門課程では "Recreation" という新設の学科を専攻し、以降どんどんこの分野にのめりこんでいくことになります。

学校卒業後の最初の仕事は、犯罪少年の更生を目的とする教育（adjudicated youth program）でした。rock-climbing や hiking、rafting などのアウトドア活動を通じて、少年たちの life skill、self-esteem、confidence を得ることを目的とするプログラムです。成果は明らかでした。その後は米国政府のアウトドア教育専門家として各地の大学、summer camp、girl/boy scout その他の団体・組織を巡りました。

1984 年に日本の文部省からの奨学金（MEXT）で日本に渡り、関西外大で日本文化を学んだ後、東京学芸大学でアウトドア教育に関する研鑽を深めました。MEXT 修了後、いったん米国にもどり、North Carolina State Univ. でアウトドア教育の教官としてはたりましたが、13 年後にまた日本に戻ってきました。



ひぐらし会館ホールで講演中の  
Ted Jones

二回目の日本では北海道教育大学で教鞭を取り、その後、北海道の日高町では 7 年間 ALT として働きながら全世代の人々の北海道の大自然を背景としたアウトドア活動をサポートしてきました。一昨年より、伊東に移って来て、自身のこれからを考えているところです。

人間性の成長（Humanity Development）を追及する Ted さんが、ご自身の人生にかぶせながら、知己を得た友人や組織とともに、実践し成長させてきたアウトドア教育の有効性を訴えています。また、多くの人や組織が、冒険教育（Adventure Education）の研究と実践を反復しながら、人と社会の成長に成果を出されていることを知りました。プレゼンテーションそのものも、ひも（ロープ）の結び方の実演デモを入れたり、意識的に簡単な言葉を使っていたり、写真を多く使っていたりで、大変理解しやすい進行になっていたと思います。Paul Hoff さんの PC 操作などのアシストも有効でした。全体として、面白く、熱量が感じられ、豊富な情報量を含む、素晴らしいプレゼンテーションだったと思います。

Ted さん、北海道から伊東に移動してきて、これからのどうするおつもりなのでしょう。プレゼンの最後のページでは Ted さんがカヤックにのっている写真とともに、「月日は百代の過客にして…」という

あの奥の細道の一節が英語で示されていました。

“The moon and sun are travelers through eternity. Even the years wander on. Whether drifting through life on a boat or climbing toward old age leading a horse, each day is a journey, and the journey itself is home.”

伊東を「旅の栖」としながら、アパラチアや北海道の厳しい自然よりは少しマイルド大自然に恵まれたこの地で、アウトドアライフの次章を企んでいるのかもしれませんが。この質問は、今度お会いした時にも聞いてみたいと思います。

最後に、この講演会は、ISGG 会長のリーダーシップと会員各位の情熱的なサポートにより実現したということと言い添えておきたいと思います。「伊東市民の皆さまに気軽にネイティブの英語に触れていただきたい」という思いが共有され、企画から運営までを会員相互の連携がうまく機能していました。講演当日のチームワークも素晴らしかった。ひぐらし会館にお運びいただいた 60 人ほどの方々にも喜んでいただけたと思います。新人会員として僭越ながら、Good Job！です。この英語講演会は今後も回を重ねるごとに盛り上がっていくものと思います。

## 私の Outdoor Education の失敗



相良 恭子

20 年以上前、東京で保育士をしていた時、当時、いくつかの私立保育園では、年長組（5 歳児）を一泊旅行に連れて行きました。私が経験したのは秩父と千葉の 2 回でした。

秩父では、浮き輪を付けて川下り、タライの中の魚のつかみ取り、キャンプファイア、お風呂等でした。

（この時は担任ではなく付き添いでした。）

担任として引率した千葉のマザー牧場では搾乳体験、  
Sheep dog Show の見学、牧場内を散策して色々な  
飼育動物と触れ合いました。

2 回共イベント会社が協力していました。

でもほとんどの保育園では、特に公立保育園では  
一泊旅行をしません。リスクが大きいからです。



マザー牧場にて

私が経験した失敗は出発の朝、体温が 37.0℃あった園児を  
連れて行った事でした。その子の母親は入院中で、父親が朝の支度をして登園しました。連れて行くの  
をためらいましたが、父親が「この子は興奮するといつも、これ位は体温が上がるので連れて行って下  
さい。」と言い、本人も「行きたい。」と言うので「何かあったら、お迎えをお願い出来ますか？」と言  
うと了解してくれました。

千葉の牧場に着いて、7 月でしたので気温も高く、しばらくすると、その園児の熱が上がってしまい  
ました。3 人の保育士が 13 人の園児を引率していましたので、他の 2 人の保育士に他の園児を頼み、私  
はその園児と宿泊所に戻り夜まで看病しました。イベント会社の車で医者にも連れて行きました。2 つ  
目の失敗はマザー牧場近くの医者は、小児科ではなく飲み薬をくれました。私は看護学は学んでいまし  
たが、私自身子供が居なかったので、嘔吐がある場合は「座薬」が良いということに思いが及びません  
でした。夜になって具合は良くなり、翌日も戸外学習でしたので、無理だと判断して父親に電話して  
迎えに来て頂きました。

しかし、翌日園に戻ると「なぜ出発時看護師に相談しなかったのか？」と園長に叱られ、看護師から  
も「嘔吐がある場合は座薬にすべき」と言われ、報告書（始末書）を書き、その子の両親にも謝りまし  
た。そういうトラブルがあるので、他の園はなかなか一泊旅行をやりません。

でも数日後、発熱した子が登園し、私の絵を描いて持ってきてくれました。嬉しかったです。又、何  
年後、私は既に定年退職をしていましたが、その子が保育園に来て「将来、相良先生みたいな保育士  
になりたい。」と言ったと聞きました。

東京の下町で園庭も満足にない保育園では、郊外への「一泊旅行」はやらせてあげたいと思いました。  
一泊旅行の後、クラスはとても親しくなりました。

伊東の小学校ではまじかに自然があり、「海遊びの日」というのがあると聞きました。教師だけでなく、参加出来る保護者も見守りをして下さると聞きました。都会にはない素敵な経験だと思います。いつか Ted さんに Risk の回避についてお話を聞ければと思います。

## マリリンモンロー映画試写会の報告



会員 小松 透

2025 年 5 月 27 日に川奈ホテルにて「マリリン・モンロー 私の愛し方」の映画先行上映会が開催され、参加しました。

この映画はマリリンを新しい視点で描いたドキュメンタリー映画で、マリリンの生誕 99 年を記念し、誕生日 6 月 1 日に合わせて全国の劇場で公開されます。フランスの映画会社の制作で、日本では彩プロの配給になります。

川奈ホテルで先行上映会が行われるのはなぜかという、もちろんマリリンがジョー・ディマジオとの新婚旅行で

日本を訪れ、1954 年 2 月 5 日から川奈ホテルに 2 泊したことに因みます。

また、昨年 2 月に ISGG がマリリンモンローの英語講演会を川奈ホテルで開催した関係で、ISGG に招待が入り、主原さん、加藤達雄さん、レネさん、Paul さん、Ted さん等が参加しました。総観客数 27 人のうち少なくとも 9 人が ISGG 関係者になります。募集定員 30 人と聞いていますので、ほぼ予定通りの人数です。



オムライスを試食した  
メインダイニング

ホテル第二ロビーに 10:30 に集合しました。第二ロビーは玄関正面のメインロビー（第一ロビー）の隣

にあり、ロビー機能だけでなく映画館としても使われたところでした。

メインロビーに移動し、ホテル元支配人の井原さんから川奈ホテルの歴史のお話を聞きました。これが大変興味深かったです。

川奈ホテルは大倉財閥を築いた大倉喜八郎の二代目、大倉喜七郎が作りました。

大倉喜八郎は新潟県新発田から単身江戸に出てきました。黒船を見たことを契機に鉄砲を商うようになり、台湾出兵の時に大きな取引をして成功し、財閥への道を歩み始めました。渋沢栄一らと共に経済界で活躍した方です。

嗣子の大倉喜七郎は 1900 年に父の三度目の洋行に同行し、ケンブリッジ大学に留学しました。学生ながらお金はいくらでもあり気前が良く、男爵だったため「バロン・オークラ」と呼ばれ、交友を深めていました。ケンブリッジの学友たちはみな城や荘園（country estate）を持っているような貴族で、喜七郎も将来はそのような城を持ちたいと思いました。

その頃はガソリン自動車の生産が始まった時代で、喜七郎も学友と共に自動車にのめりこみました。世界で初めての高速カーレース場（ブルックランズ）で開かれた初のカーレースに出場し見事 2 位に入賞しました。その時のフィアットは 1907 年の帰国時にみやげとして持ち帰りました。

自動車の他にもボート、飛行機、音楽、絵画など多彩な方面で活躍しました。大倉山のスキージャンプ場は、冬季五輪の準備不足を見かねた喜七郎が私財を投じて 1931 年に作ったものです。

帰国後、お城と牧場を作ろうと富士山と海が見える川奈に広大な土地を求めました。ところが岩だらけの土壌の関係で牧場には出来ず、ゴルフ場になりました。大島コース開業が 1928 年、ホテルと富士コース開業が 1936 年です。

川奈は「川が無い」と言われるくらいで安定した水源が無く、まず天城の山中から水を引いてきました。今でも天城山系の美味しい天然水を使っています。ゴルフコースの溶岩地の痩せた岩場を覆う土は県外の小田原から船で運んできました。

11 時頃より館内を見学しました。まずメインロビーから。今でも現役の大きな暖炉が目を引きまします。鷲のエンブレム、2 つに割った模様を活かした大理石、模様の意味のある絨毯、昔から使っている革張りの椅子などのお話を聞きました。

左手に出て重厚な雰囲気のマインバーに行きました。ホテルに行ったらバーに行かないともったいないそうです。名前は忘れましたがオリジナルカクテルがあります。

2階に上って第2ロビーの上の映写室の前に行きました。当時は映画にやっと声が入り始めた黎明期で、映画館も少なかった時代です。ホテルで映画が見られることは貴重だったでしょう。当時の映写機はとても熱くなり、映写室(シネボックス)は防火対策のため窓が無い密閉空間で暑くて死にそうだったそうです。

無垢の材木に見える太い柱は木材で覆ったもので、中身は鉄筋コンクリートです。大変頑丈な設計で梁も太く地震でもびくともしません。窓のガラスも割れたことはなくオリジナルです。

さらに3階に上ってマリリンモンローが泊ったとされている316号室の室内を見学しました。改修もあってオリジナルのままではないですが、古い家具も残されていました。室内は広めですが、とても広いという程ではなかったです。

地下1階の廊下の両側には歴史的な写真や小物が展示されています。マリリンはもちろん、各国首脳、ノーベル賞の大村博士などの写真があり、是非訪れる価値があります。

12時頃お待ちかねメインダイニングで有名なオムライスの試食です。

なぜオムライスかというと、マリリンが急遽夜食を所望されて、レストランは閉まっていたがその夜当直だった若き加藤威朗氏（加藤達雄さん情報による）が作れる料理がオムライスだったからです。気に入ったのでマリリンは次の夜もこの夜食を食べました。

試食のオムライスはハーフサイズと聞いていたので。半分に切ったような小さなオムライスかと思ったら、小さめですがちゃんとしたオムライスでした。鷲のマークの焼き印が印象的でした。

午後は本命の上映会です。マリリンモンローというとブロンドでグラマーな、どちらかと言うと頭の弱い、男性に甘える美女というイメージがあります。この映画は長年の研究の結果、違った視点で彼女を捉え、マリリンを再評価しています。彼女は自分の頭で考え、自己プロモーションをはかり、演技派女優を目指して努力を積み重ね、大スターになりました。男性中心社会の1950年代の映画界で、大映画

会社相手に自分を主張して、女性として道を切り開いたマリリンは時代の先駆者と受け止められ始めています。

次回の英語講演会も川奈ホテルで計画されているとのこと楽しみです。

## 【K's サロンからの報告】

会員 小松 透

K's サロンは原則2カ月に1回、奇数月の開催になりました。4月はお休みで、5月と7月に開催されました。間が空くので開催が待ち遠しく感じられます。

### 第17回 K's サロン 2025年5月21日（木）

参加人数： ISGG 3名、ゲスト 6名

Julian 男性 スイス Zurich 近郊

日本に来て3週間。大阪で万博を見てきた。混んでいて予約していてもパビリオンに入るのに2時間くらい待った。



スイスでの温暖化の影響を尋ねたら、雪が積もってスキーのできる場所がどんどん山の上の方に移っている。閉鎖されたスキー場も多い。

スイスではインフレは比較的急激ではないが、もともとの物価がとても高いせいだと思う。普通のアパートの家賃が2~30万円する。

仕事は何か聞いたら話がかみ合わない。ヒゲも蓄えて年金の話も熱心なのに、なんと19歳で高校を卒業したばかりだった。

**Elvis 男性 UK London 近郊**

**Francesca 女性 UK London 近郊**

ワーキングホリデーで来ているカップル。これから 4 週間 K' s ハウスで働く。IAIR の日本語教室も期待している。

**Tina 女性 中国 チベット出身?**

今は上海の近く（杭州?）で働いている。マレーシア、インドネシアなど各地を旅している。

5 千円でさかな料理のランチを食べて、とても美味しかった。

**Shashank 男性 インド Jaipur**

IT エンジニア。インドは夏は 45 度になる。冬も結構寒く 7 度になる。

ジャイプールはニューデリー近郊のピンクシティで知られる美しい古都。

頭脳労働者なのでいつもエアコンの効いた場所に居ると冗談っぽく言った。

下田に行ったがガラガラだった。明日からは黒船祭りが始まり人で溢れると伝えた。

**Ana 女性 フランス Lyon**

ワーキングホリデーで来ている。野沢スキーエリアで 5 か月働いてきた。野沢は外人が多く英語で用が足りるとのこと。

Neuroscientist とのこと。Canada, Australia, New Zealand などに行ったことがある。

日本に初めて来たのは 2020 年で、浅草はじめどこに行ってもガラガラだった。

おりしも藤の広場でラーメンフェスティバルが開かれている時期で、加藤守康さんも行った。つけ麺スタイルの食べ方を説明した。Julian は伊東でとてもローカルなラーメン屋に行くと嬉しそうに話した。福みつという店で、調べてみると確かに小さくてアンティークな店のようだ。Tina は中国につけ麺スタイルは無いが、雲南ラーメンがおいしいと自慢した。

いつもは終わりの頃はいくつかのグループに分かれて話が弾むが、今日は人の話を皆が聞いてまとめ

のある会になった。

## 第 18 回 K' s サロン 2024 年 7 月 17 日 (木)

参加人数 : ISGG 5 名、ゲスト 6 名

**Julien 男性 フランス国籍 Réunion**

Réunion (レユニオン) はフランスの海外県で、マダガスカル島東方のインド洋上にある島です。火山による景観が素晴らしく隠れた人気スポットです。離島にはフランス政府から莫大な経



済援助があり、島民は喜んで住み続けているとのこと。日本の離島も人が減っては困る。

前日も偶然ジュリアンさんがいたが綴りは Julian だった。Julien はフランス式。

もう 8 年世界中の旅を続けている。日本は 8 か月目で既に全国をまわっている。ニセコに 6 カ月居た。

四国も良かった。K' s ハウスにはボランティアで泊っている。この後は白馬、野沢に行く予定。

全身に水を流したような模様の見事な Tattoo をしていた。

**Robyn 女性 USA Seattle**

**Truett 男性 USA Seattle**

日本に来たばかりの親子。母は Politician。息子は高校を卒業したばかりで、Economics 専攻で大学に入る。Seattle の南 Tacoma に近い Gig Harbor という小さな町に住んでいる。

9 日間という比較的短い日程で、昨日は遅くまで浅草周辺を歩き回った。明日は城ヶ崎海岸と大室山に行くよう勧めた。東京に戻って友人が Nissan GTR に乗せて案内してくれるというので楽しみにしている。

ISGG の説明をしたら興味を持ってきて、ISGG のホームページもサッサと開き、英語で読んでいた。

今はブラウザに翻訳機能が付いている。さすが若者は違う。

**Melanie 女性 Argentine Buenos Aires**

K's ハウスで働いている。国際交流協会で日本語を習っている。日系4世だけあって上達が早いとのこと。この後は野沢温泉に行く。

**Zheng Yi Hong (鄭旖泓) 女性 中国 長沙**

**Li Xiang Yang (李香雅) 女性 中国 長沙**

終わり頃に参加してくれた。二人は一緒に旅行中。次は京都に行く予定。

漢字で名前を手書きで書いてもらった。知らない字だったのでなかなか読めなかったが何とか読めた。

今回も楽しく過ごすことができました。

## 【英語サロン】報告

6月28日

＜ISGG 出席者 10名＞

＜ALT 出席者 3名＞

＜内容の一部＞

「怖かった体験」について全員から発表していただきましたが、それぞれユニークな体験をされ、新しい発見も多々ありました。

- \* 日本とアメリカではアウトドア BBQ の内容が違う！ 日本でやる BBQ は日本独自のやり方のよう
- \* 東日本大震災の時にオフィス内が停電になった時の怖い体験
- \* キャンピング中に突然消えたお菓子—犯人は？
- \* 深夜に帰宅途中、誰もいないはずが後ろから鍵をカシャカシャならす音と足を引き摺る音—その土地にある古い伝説に関連？
- \* 学生時代のキャンパス、突然歩いていたすぐそばに4階から学生が飛び降り自殺して落ちてきた！

\* メキシコ出張中にうっかり飲んだ水と缶ビールにあたって酷い経験をした—海外では水はもちろん、缶ビールも直接飲まないで！

などなど、書ききれなかった皆さん、ご容赦を。 (加茂野 まり子記)

7月26日

英語サロンをはじめ、ISGGの諸催事に4年間もの間協力してくださったEthanが、とうとうALTを辞して、帰国されることになりました。そして、新しく赴任してきたPrynのお二人をむかえて「歓送迎会」が開かれました。

ISGG会員13名、ALT等7名が集まり、喫茶わかばで楽しいひとときをすごしました。(編集部 記)

〔Ethanからのお礼の手紙〕

Thank you all very much for such a lovely farewell party!

I'm sad to leave all of you, but I will be back and I hope to impress you all with more Japanese ability and stories from the UK.



わかばにて Ethan の Farewell party

## 【事務局便り】

4月に2025年度(第36回)総会を無事終了後、全会員で6月7日に開催された第5回英語講演会の準備に入り、それも盛況のうちに無事終了する事ができました。又、5月27日には川奈ホテル様より近日公開される「マリリンモンロー 私の愛し方」映画試写会への招待、5月16日は恒例の黒船祭での通訳と当会にとって忙しくも充実した四半期でした。もちろん、月例/隔月例のイチゴサロン/英語サロンとK'sサロンも開催され活発な議論・トークで盛り上がりました。

## 【編集後記】

“言うまいと思えどこの暑さかな！”

連日のうだるような暑さにうんざりですが、会員の皆様、お元気にお過ごしですか？

今回も、読み応えのある素晴らしい「記事」を沢山寄せていただきありがとうございました。。

「菊池さんのお話を毎号とても楽しみにしています」という方のお声を耳にするたびに、とてもうれしくなります。伊東の歴史・自然のお話をはじめ、外国航路のお話などなど……。そして、今回は、奥様と毎日楽しまれてるティータイム、モカコーヒーのお話し、記事を読ませていただいている間にも、モカコーヒーの香りがほんのりと漂ってくるようです。「モカ」という名前が、輸出港の名前に由来するのを初めて知りました。

加藤守康さん、下田黒船祭りの通訳として参加、稲梓小学校の生徒さん、米国水兵さんの皆さんとの交流、私も何回か参加させていただきましたが、水兵さんたちとゲームを楽しんでいる子供たちをみると、こちら元気をいっぱいもらえそうですね。

中原さん、テッドさんの英語講演会のお話、上手にまとめていただきありがとうございます。

アウトドアの有効性、これからますます重要になってくるのではないのでしょうか。

相良さん、保育士としての体験談、とても興味深いお話でした。相良さんのような責任感の強い保育士さん頼りになります。

小松さん、「マリリンモンロー映画試写会」の報告ありがとうございます。この試写会が行われるようになった経緯、そして伊東の名所「川奈ホテル」の内部の様子などがとてもよくわかります。

そして、K's サロン、ますます訪れる外国人たちの数が増え、楽しそうですね。

会員の皆さまの参加を期待してます。最後に、会員の皆さまの体験談、どんな記事でも Welcome, お待ちしてまーす!!

(曾我記)

伊東 SGG のホームページが新しくなりました。下記枠内の URL にアクセスをお願いします。

伊東市善意通訳の会 (ISGG)

会長 主原 一雄

(事務局) 〒413-0232

伊東市八幡野 1324-40 主原 一雄

e-mail: [larryn@estate.ocn.ne.jp](mailto:larryn@estate.ocn.ne.jp)

(ホームページ) <https://itosgg.org>

(編集委員) 稲葉尚子 曾我廣子 加藤達雄